

# 轍 2023 目次 (敬称略)

## 第三部

---

2023 年 10 月 28 日~11 月 4 日

OB1 年 小野

3

---

今回の轍は 3 部構成です。第一部、第二部は別ファイルで収録しております。

第二部へのリンクは以下のとおりです：

[http://www.teamnc.net/online-magazines/pdf/wadachi2023\\_2.pdf](http://www.teamnc.net/online-magazines/pdf/wadachi2023_2.pdf)



---

2023/11/19 22:18 11/20 4:29 奥只見書き終わったーーーー！！！！！！！！！！

---

## 11/12: 2023 明神祭 (自転車 90km 2,300mUP)

10/28~10/29: 鶴ヶ島 100km ウォーク

10/31~11/1: 諏訪, 伊那

11/2~11/4: 奥只見

と来まして

11/8~11/9: 出張@福島

11/12: 明神祭

11/13: 研究発表

なんでこんなことになってるの? 11/5~11/7 は研究をやって 11/8~11/9 と福島に出張に行き、11/10~11/11 は研究をやり時刻は 11/11 の 15時半になりました。

正直研究の進みが悪く 11/13 の研究発表に向けて準備時間を少しでも取りたい、しかし明神祭もまた年に一度普段会えない人と会えるイベントです。参加申し込みフォームには真っ先に記入したものの、参加するか否か悩んでいました。でも RIさんと IMSRさんが珍しくいるから行くことにしました。後のことは後の自分が何とかしてくれるでしょう……。

4 時間半睡眠で早朝に起床しました。明神祭について面白いエピソードが 1つ、今回で明神祭に参加するのは 4 回目なのですが、集合場所の熱海までの行き方は以下の通りでした(ついでに今年のも)。

### 2019 明神祭 216.5km 4,502mUP

Route: 湯河原—椿ライン—箱根—箱根旧道—箱根湯本—箱根新道—乙女峠—明神・三国峠—山中湖

集合: 湯河原まで 100km 自走、AM3:02 出走

### 2020 明神祭 勉強が忙しく不参加

### 2021 明神祭 208.5km 3,724mUP

Route: 熱海—熱海峠—箱根—仙石原—金時峠—足柄峠—駿河小山—明神・三国峠—山中湖

集合: 熱海まで 115km 自走、PM11:59 出走

### 2022 明神祭 313.2km 4,257mUP

Route: 熱海—熱海峠—箱根—仙石原—金時峠—足柄峠—駿河小山—明神・三国峠—山中湖—橋本—本郷

集合: 熱海まで 125km 自走、PM11:57 出走

### 2023 明神祭 91.8km 2,351mUP

Route: 熱海—熱海峠—箱根—仙石原—長尾峠—駿河小山—明神・三国峠—駿河小山

集合: 輪行、AM8:27 出走

今回初めて熱海まで輪行をしたのですが、これまで明神祭で行きに輪行することを考えたことすらなかったようで「最寄りから始発で行っても熱海の集合に間に合わない」ことが判明しました。自転車に空気を入れて油をさし間に合う所まで走りました。朝ごはんは車内でおにぎりを 3つ食べてあとは睡眠確保のため寝ていました。

## 8:26 熱海駅集合



今回は OB6 名現役 1 名と高齢化を感じましたね(現役で他に 2 人ほど申し込みを貰っていたそうですが、体調が悪かったり忙しかったりしたそう)。駅前で結構話してダラダラしてしまいましたが 8:27 出走。今回は早く家に帰りたかったので場合によっては一人で先に行くことも視野に入れていました。コースとしては明神・三国峠を越えて山中湖に降りてから籠坂峠を上って御殿場まで下るというのを考えていました。籠坂は山中湖側からだと 100mUP で済みますし富士山駅、大月駅は遠いし高いので。

## 9:02 イノシシが死んでいる



熱海峠を上っている最中道路脇にイノシシが死んでいました。気付かなかった方も意外といたみたい。ログで見ただけの存在だった IMSR さんは序盤で皆を抜いて見えなくなって凄いなと感心しました。私はというと……。

「**左膝が痛い**」(何回目やねん)

奥只見から日は開いていたので治ったものだと思い込んでいました。ただ、まだ常時発生するレベルの痛みだったので大丈夫かと自分のペースで進みました。実際、例年より良いペースで上げて前半の急勾配区間もイノシシの地点を除いて足つきなし、後半も痛みを抱えながら十国峠レストハウスに到着しました。常時発生 of 軽い痛みなら良かったものの、途中であの「**悶絶する痛み**」が発生し、これは終わったな、完走は無理だなと悟りました。9:36 十国峠レストハウス

熱海峠から箱根峠はダラダラ上り坂が続いて好きではありません。既に時たま襲い掛かる激しい方の膝の痛みが発生している以上左足はあまり使えません。以後、右足で踏んで左足には極力力をかけない右足スタイルで平地も上りも走りました。10:21 箱根峠

10:48 いつもの芦ノ湖セブン 膝が！痛い！ストレッチを試みますが全く効果はなく……。心配して頂きましたがここで停まるわけには行かずどこかしらの駅に行かねばなりません。もうこの足で足柄峠は絶対上れないと理解していたので迂回ルートとして上りがまだマシそうな長尾峠へ行き長尾祭を開催しようと主張していました。それでもダメだったら乙女峠越えの乙女祭を開催しようと。だって足柄峠はかなり斜度きついし上っている途中に眺望が全くなく単純に面白くないし飽きたという理由もありました。補給でおでんを食べている人が 2 名ほどいて面白かったです。

12:27 仙石原 痛くて悶絶することも何とか仙石原までは辿り着きましたが道中とても前には着いて行けず、痛い痛いと言いつつながら自分のペースで走りました。やっぱり足柄峠は絶対に無理だし普通に行きたくない。それよりはここで足を致命的に壊すことを避けたら明神・三国峠に上れる可能性があるのではないかと考えました。ここまで来たらやはり上りたい。



## 12:27 仙石原 痛くて悶絶することも

何とか仙石原までは辿り着きましたが道中とても前には着いて行けず、痛い痛いと言いつつながら自分のペースで走りました。やっぱり足柄峠は絶対に無理だし普通に行きたくない。それよりはここで足を致命的に壊すことを避けたら明神・三国峠に上れる可能性があるのではないかと考えました。ここまで来たらやはり上りたい。



## 12:50 長尾峠と乙女峠の分岐



金時峠(箱根金太郎ライン)方面へと曲がる本体から離れて体力的に厳しかった私と RIさんは長尾峠へ行くことにしました。2019年後閑杯で集合の際に通ろうと思ったのですが通行止めになっており乙女峠を通ったので今回が初めてです。

そして、この長尾峠という選択は大正解でした。上っているのか分からないような緩い斜度が続き、急斜面だからか視界を遮る木も少なく景色もとても良いものでした。



これには RIさんもご満悦。仙石原を上から眺められるとは知らなかったし、仙石原、大涌谷、芦ノ湖が同時に見渡せる場所があるとは驚きです。それにゴルフ場を上から眺めると面白いことを知りました(木の植えられ方が面白く北海道と言われても信じるかも、美瑛にありそうな景色)。天気予報では曇りだったのですが、丁度この長尾峠にいる時だけ雲が晴れてくれたのも良かったです。これには膝の痛みも吹っ飛ばすわけないだろうが。視点を高くしようと法面に上るも植物の棘に阻まれ撤退、痛いよ。



頂上の眺望は視界が藪に阻まれて微妙です。10分ほど登山すれば展望スポットらしきものがあったようですが、階段を数段上ってこの足じゃ無理だと理解したので引き返し、長尾隧道を通過してダウンヒルしました。駿河小山側にも展望スポットがありましたが富士山は完全に雲に覆われてしまい何も見えませんでした。



### 長尾峠は明神祭の迂回コースとして優秀

本来設定されているコースを外れるのは明神祭の趣旨(いっぱい上ること?)に反する気もしますが、迂回コースは持っていて損はないでしょう。長尾峠の箱根側はほとんど上らず景色が良いという幸せなコースであり、金時峠分岐から長尾峠を通過して駿河小山のセブンまでは26kmありますが峠以降はずっと下りまたは平坦となっています。例えば足がしんどいけれど明神には行きたいという人がいれば長尾峠に行けば良いのです。今回痛みで走るのが遅い私であっても足柄峠組との到着時間差は3分程度でした。



←民度が低い(笑)

去年は7人中3人しか山中湖に着けませんでしたでしたが今年は7人中7人がこの時点で生き残り私が脱落最有力候補でした。まあここまで来たのだから致命的に体を壊さない+迷惑をかけない範囲でチャレンジはするけれどヤバくなったらいつでも下って駿河小山から輪行しようと考えていました。

セブンから明神入り口までは5.7kmの200mUPと平均すれば3.5%ですが半分ぐらいは平坦なので、いや7%やん。痛みを最小限に抑えるためここでも右足で上ります。

15:16 明神峠入口～ちょっと待ってくれ！～



15:55 年に一度はこれを見なきゃね！



ひたすらに自分のペース。ひたすらに自分との戦い。ひたすらに左膝のご機嫌取り。



早々に単独走行になりましたが、無理のないペースを守ると 10%超えの斜度でも上れるみたい。ある高さにあると思われる閾値を越えない範囲で左足の出力を調整すると激しい痛みは発生しないような気がしました。当然普段通りに左右均等に出力すればそれは閾値オーバーで自転車を降りることになったでしょう。いつも通り残り距離が 1km 減る時間が長くて辛いです。10%、14%、16%を連発されながら何とかドーナツ坂まで辿り着きました。ドーナツを抜ければ一瞬勾配が緩む(といっても 8%ぐらいはある?)ので足つきなしで頑張りましたが、蛇行したとしても出力を絞って上れる坂じゃなかった。最後は歩いていつも通り 18%に標識と自転車を撮影します。ドーナツを越えたとして残り距離は 3.2km と半分以上残っています。まあ神奈川県境からはしばらく平坦(本当?)で無いようなものだから半分は切っているか。



16:31 三国峠到着！！

熱海峠時点で三国峠へ辿り着けないと悟ってしまった中、ほぼ右足だけでここまで来れたので「やったー!!!」などと叫んでしまいました。嬉しかった。神奈川県境手前なんか斜度が厳しすぎて右足を踏んで力をかけない左足を動かし右足が再度上に来るまでに速度が 0 になるというのを繰り返しながら上っていてしんどかったです。

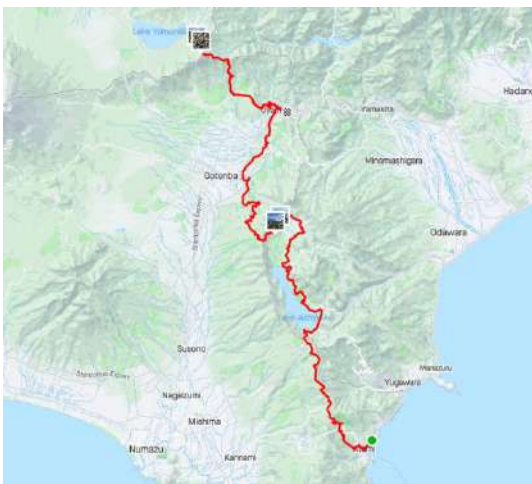
17:01 これでシーズンオフにできるってもんです

2023 明神祭





頂上はとても寒くて寒さに弱い私はウルトラライトダウンが無ければ我慢できずに一人で下っていたかもしれません。今気温を見たら三国峠氷点下 3°Cだし、この時でも 10°Cぐらいだったかな。風も吹くから体感気温はもう少し低かっただろうね。橋本までの完走は去年行っているし、個人的にはパノラマ台の景色さえ見られれば完走で良いと思っているのでさっさと最寄りの駅まで行きます。結局、籠坂へ行く足は残っていないし一刻も早く列車で温まりたかったからパノラマ台から三国峠へ上り返して駿河小山まで来た道を引き返すことにしました。明神のダウンヒルはこれが初めてでしたが、かなり怖かったです。例年より 1 週間以上開催の遅い明神祭でかつパノラマ台到着時刻も遅めだったので真っ暗だったし斜度はあまりにきつい。ドーナツ坂の 18%は他の区間より明らかに急に感じて前転しないように体を後ろ目にしていました。上りでは前輪が何度も浮いて後転しそうになるし下りでは前転しそうになるとんでもないドーナツ坂でした。私は慎重なので本気で左右から鹿が飛び出してくる可能性を考慮してスピードは抑えめで走りました。何とか無事に下れてグータッチ。



走行ログは左図の通りでした。明神祭は 1 年に 1 度珍しい人と会える素敵なイベントだと思うのですが、4 回も参加するとコースの方に飽きが出てしまう……、なんてことはなく不思議と何回走っても良いと思うのは山梨県に踏み入れた時と山中湖パノラマ台に立った時の達成感からでしょうか。都合が合うなら今後も参加したいと思います。開催されるであろう文化の日付近は奥只見に行きたい……。あの朽ちかけもしくは朽ちる直前の輝きを見てしまおうとね……。今回初めて行ったけれど雲海に急に晴れる雲に日の当たり方にタイミングにかなり運が良かったのではないかな。

場所余っちゃったので檜枝岐の紅葉



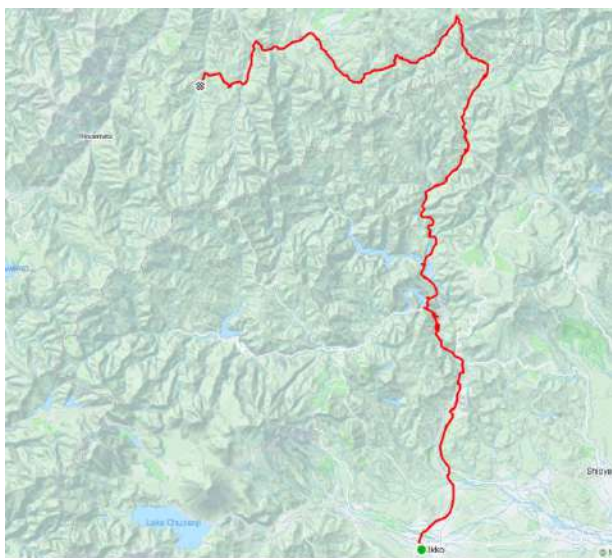
---

ここからは説明少なめでお送りします。早く終わらせて寝たい。

---

## 5/12: 南会津の温泉（自転車 245km 3,948mUP, 車 130km）

時は 2023 年 5 月、福島県と新潟県でチャリ旅をして来ました。この旅行の目的は「温泉」でした。この旅をしようと思った最初の理由は秘境「檜枝岐村」に行ってみたいと思ったことです。檜枝岐の付近には渋い温泉がいくつかあることが分かったので温泉をコンセプトとした旅を作ることとしました。



移動手段によって旅を 3 パートに分けられるのですが、最初のパートは自転車で、日光周辺から北上し鬼怒川温泉を通り過ぎる国道 121 号を通り、会津高原尾瀬口駅の辺りで進路を西にとり奥只見でお世話になった国道 352 号で木賊温泉まで行きます。日光は何回か行っているけど日光以北は自転車で行ったことがありませんでした。

夜なんだけどね。

最近やりがちな始発輪行では時間が遅い故の終電輪行を行い夜通し走るという計画でした。おかげでこの後苦しむ羽目に……。

5/11 22:49 終電で今市駅まで輪行



23:41 鬼怒川温泉 温泉は入れないけれど



日光以北の国道 121 号沿いは鬼怒川温泉を過ぎると完全に山中の道になり鹿が飛び出してくるようなこともあります。今回のコースではラストコンビニが鬼怒川のローソンであり会津高原尾瀬口まで行ってもコンビニは現れず 60km 先のヤマザキショップ南会津舘岩店でようやくコンビニが現れます。

この旅における最大の失敗は気温を読み違え、「手袋を間違えたこと」でした。後述しますが、5 月に寒いというイメージが無かったためまあ良いかと指ぬきグローブを持ってきてしまったのです。

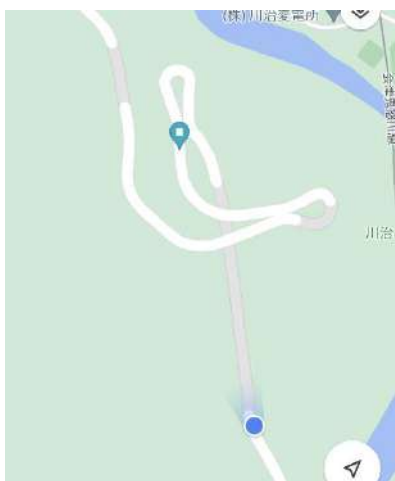


鬼怒川温泉に入りたかったけれど午前 0 時の真夜中に入れる湯などないのでスルー。廃墟群があるのは知っていて暗闇に目を凝らしてけれどよく分かりませんでした。泊まったことのある星の屋という旅館があった位置も探したけど、こちらもまた分かりませんでした。この日は「8湯」に入ろうと思っていましたが果たして何湯入れるのか！

0:42 真夜中の小網ダムは下が何も見えず怖いです



0:55 急カーブの川治第二トンネル



鬼怒川温泉を過ぎると街灯も減ってよいよ山の中へ、本当に道が暗いですが交通量がほとんどないのが嬉しいです。鬼怒川、新藤原と過ぎて川治温泉に着きましたが、寄り道で真夜中の川治ダムへ行くことにしました。左図は道中に撮ったスクショですが、九十九折の変則版みたいな凄い線形ですね。国道でもないから道は更に暗いです。川治第一、第二、第三トンネルを通りますが、奇妙なことに一般的に暗いイメージのあるトンネルの方が道路より明るいのです。何か不思議な感じがする。

1:04 川治ダム

1:08 事件が発生



川治ダムからを過ぎた場所でのことです。左側にダム湖を見て走っていると右側の斜面上方からガサガサと音がします。姿の見えない野生生物に恐怖していたら次の瞬間、道路に石が落ちてきました！！かなり恐怖を感じました。動物は多分鹿で、石には当たらずに良かったです(面白いヒヤリハット)。

どれぐらい暗いかってこれぐらい。下の光は湖面に反射しているだけで、奇妙なことにトンネルの中だけが明るいのです。まあおかげで星はよく見えたけれど。(1:20)



#### 1:29 湯西川温泉駅に到着

本当はここで国道から逸れて湯西川温泉金井旅館薬研の湯という川の横にあって橋から丸見えな湯に浸かりたかった(深夜に出歩いている人はいないでしょう)のですが時間が押していたためスルーして更に北上します。

自転車で夜間に走った者として言いますが、**国道 121 号の日光以北を暗い時間に走るのは本当にやめた方が良い**。自転車の速度なら避けられても車やバイクでは無理でしょう。

国道 121 号で最も鹿が飛び出してくるのは湯西川温泉駅～中三依温泉～上三依塩原温泉口の 3 駅分の区間だと感じました。街灯のない真っ暗な道を走っていたら右からは鹿に見られていて驚いたし、左から



は鳴き声が聞こえて停まったし。Twitter で「国道 121 号 鹿」と調べれば他の人の声も出てきます。上三依塩原温泉口で国道 400 号が合流するのですが、ここからは 1 匹の気配も感じませんでした。トラックを主として那須塩原方面からの車で交通量が増えるのが関係しているのかな。

ところで 5 月で 2°C って何ですか、寒いんですけど。特に指がやばい。

←地味に星が写っている





2:29 R121—R352—R400 の三連おにぎり

全国でも数少ない三連おにぎりで記念撮影、本当は標識のバックに星が沢山浮かんでいるのですが撮れませんでした。



2:59 栃木—福島県境のトンネル  
トンネルに書いてあったのですがこの地点が日本列島の分水嶺であり水が日本海と太平洋に注がれるそうです。峠というのもあり、標高 832m と結構高いところへやってきました。



3:07 気温氷点下 1°C

流石に 5 月でこれはヤバいって、おかしいやろ。  
こちとら指ぬきグローブを着用して素肌(指の先)で風を切っているというのに。気象庁のページで調べてみるとこれから行く檜枝岐の平均最低気温は 5/12 で 5.0°C なのに -1°C ってどれだけ下振れを引いてるんだよ。普通にこいでいるだけでは足の指が動かず足の方もどんどん冷やされるので意識的に動かします。ダウンヒルが辛かったですが青看板に初めて檜枝岐と見た時は一瞬だけワクワクしました。やばい全指が冷たすぎる。

3:20 木賊温泉まで残り 36km



3:37 気温氷点下 2°C

なんで、なんで下がるの。痛いよ……！  
国道 352 号に入ると最初に 320mUP を強いられ標高が上がるし日の出の時刻に近付いているので気温が下がるのは自然なのですが、そんな理屈はいらない。いたいんだよ……。  
コンビニからも随分と走ってエネルギー不足のため足つきをしながらも何とか頂上へ着きました。

4:08

4:10 標高 1,000m の中山トンネル





4:35

●凍結  
-3.0℃

いたい.....

手も足もいたいよ

風がいたいよ

気温(℃)	体感温度(℃)
-3	-23



奥只見の膝みたいに「痛い痛い痛い！」ではなく嘔みしめるように「いたい……、いだいよ……」と震えながら弱音を吐いていました。近くのデータから湿度を 93%としてダウンヒルでは時速 30km で下っていたので秒速 8.33m/s とすると体感気温は-23℃らしい。本当か？と言われるだろうけど、-20℃まで冷え込んだ日の出前のぬかびら源泉郷で手袋を外して末端が冷え込むまでしばらく歩いたことのある私に言わせると、それに匹敵するほど手が痛かったです。風がいたくて平地すら走り出してはすぐに停まってしまう始末。それに手の指だけじゃない。とても風通しの良い靴のせいで風が常に靴の中を冷やしてもう足の指の感覚もないのです。あまり詳しくないけれど、このままじゃ凍傷になるぞ。

この痛みを表現するには「痛い」ではなく「いたい」なんですよね。呂律が回っていない感じを表現したいのです。

5:04 湯の花温泉入り



5:07 解凍！痛——————い！



とにかくっ、温泉まで行けば……！

湯の花まで痛さに耐えていたため道中のことは何も覚えていません。雑草に霜が降りていたのは写真に撮りました。通りかかった湯の花温泉弘法の湯で排水から湯気が出ていたのでこれは助かったと手袋を脱いで手を突っ込むと、指全体が痛みます。-3℃から 45℃？50℃？分からないけれど急激に温めて膨張しているのかなと思いました。調べてみると I 度の凍傷の症状として発赤、腫膨、加温すると痛みを認めるとあったので軽度だけど凍傷になっていたのかも。温泉を目的地としていて助かったよ。2℃から-3℃で5時間指は素手で自転車に乗っていたの今考えるとヤバいな。気温はちゃんと事前に調べます。

想定より到着時刻が遅くもう少しで湯の花温泉が開きそうなのですがジッとしているのを嫌ったので、山を1つ越えて予定通り先に木賊温泉へ行くことにしました。それに手の指は良いとして早く足の指を湯につけて解凍したい。



5:39

結構斜度のきついプチ峠を越えて下り切り、よし温泉まではあと 1.3km だというところで……、何でパンクするんだよ～～！

仕方ないのでその場で修理、6時には終わりました。



## 木賊温泉

この温泉の名前は初見では読めないでしょう。「きぞく」ではなく「とくさ」温泉と読みます。



6:06 車が1台(後に登場)



6:08 階段を下りて川沿いに湯屋



Google Maps で見て雰囲気の良い  
なと期待していた温泉です。川が  
増水したら大変そう……。実際に  
何度か流されているそうです。入  
湯料は令和5年4月1日から値上  
げした300円、その値段なら全然  
OK。



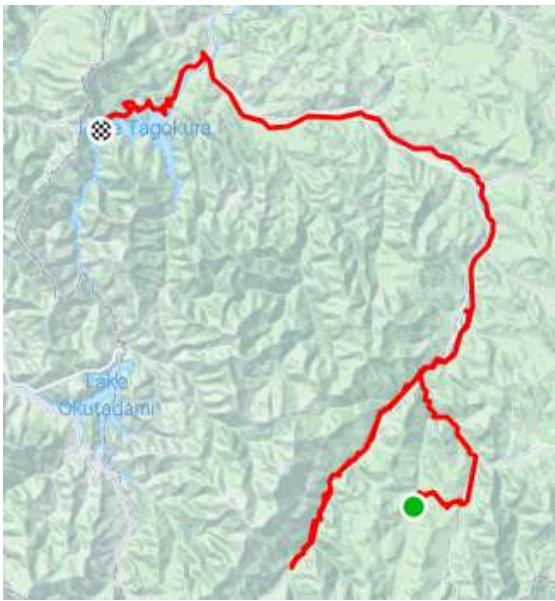
### 出会い

温泉に入ると先客が1人、どちらからと声を投げると私と同じ東京からだそう。彼はなんとJR東日本で運転手をやっているそうで、数日車で南会津を回っているとのことでした。運転の仕方やどうやって今に至るか、会社のことなど色々なお話を聞かせて頂きました。そしてどう  
いう経緯だったかなー、自転車をばらして車に私と自転車を乗せて頂けることになりました。温泉は湯を楽しむ場ですが、こうして人との会話を楽しむ場でもあると思っています。

湯についてですが、浴槽は2つあり源泉はなんと足元から湧いていました。湯温は高めです。出たり入ったりしながら会話を楽しみました。シンプルな造りが気に入りました。10点満点中6点。



先ほど旅が移動手段で3パートに分かれると書きましたが、ここからは2パート目の車移動130km。



温泉で偶然出会った、先ほど見た車の持ち主のかっこいいおじさんを記事の中ではAさんと呼ぶことにします。

7:42 駐車場にて

木賊温泉に着いてから1時間半も経っており相当長話をしたことが伺えます。温泉から上がった私はというと自転車の前後輪を外して車の後ろに積ませて頂きました。只見方面へ行きたいというのと入りたい温泉を伝えると、湯の花温泉へ向かってくれました。彼は南会津に滞在して車中泊をしながら温泉やドライブを楽しんでいるようで、湯の花温泉はもう入ったそう。車で待っておいてもらえることになったので申し訳なく思いつつ急いで温泉を消化しに行きます。

## 湯の花温泉

湯の花温泉には共同浴場が4か所あり、石湯・弘法の湯・天神湯・湯端の湯。入浴料はなんと4か所で合わせて値上げされても300円と破格の安さです。入浴券は温泉に掲示されている場所(個人宅なんかも含まれる)で購入できますが、分かりやすいのは民宿「ふじや」さんでの購入だと思います。

### 石湯

8:01 光が射して自然と心も明るくなりそう



4つの共同浴場のうち湯端の湯だけは数百メートル程度ですが他と離れたところにあったので取り敢えず湯端以外の3湯に入ることになりました。まずは1つだけ川の対岸にある石湯へ。木賊と同じく河原に小屋が立ちます。

岩をくりぬいて造られている浴槽は初めて見るタイプ、採掘場や石切り場のようでとても好きです。木賊温泉と同じくこのシンプルさが良い……、この場所にリンスは似合わない(体を洗いたいなら他のところに行った方が良いでしょう)。さて湯加減は？と入ってみるとこれがあまりに熱くて入れない。ホースで水を少し入れましたがそれでも入れる温度ではありませんでした(飯坂で入った47°Cより熱かったと思う)。よく見ると源泉が注がれる浴槽の下流にもう1つ浅いのがあり、こちらなら入れました。4点。

## 弘法の湯

8:26



続いて凍った私の指を融かしてくれた弘法の湯へ。4 湯のうち弘法の湯と湯端の湯だけ男女別になっており残りは混浴です。ここにはシャワーのみ設置されており休憩所もあるので設備が他より充実しています。湯は普通のよりはかなり熱いと感じましたが石湯ほどではなく全身ポカポカになりました。源泉は 57.2℃と書いてありましたが、さっき指を解凍していた時もしかしてめっちゃ熱いのを触っていた？ 入れたので 5 点。

## 天神湯

8:45



4 湯全て無人営業のようですが、弘法の湯では管理している方？がやってきて(温度的に)入れました？と聞かれました。入れたけれど石湯があまりに熱かった。話によると日によって熱さは変わるのだそう。さて、A さんの車に寄ってから石湯からすぐ近くの天神湯へ。これまで入った石湯・弘法の湯との泉質の違いは感じられませんでした。天神湯はほどよい泉温で、これまた体を芯から温めてくれました。6 点かな。

分析書によると弘法の湯と天神湯の源泉は同じだったので異なるのは浴槽と湯屋、雰囲気ですね。

あと 1 点営業時間について。4 湯の営業開始時間は微妙に異なっており、Google Maps によると石湯・弘法の湯・天神湯は朝 6 時半からで湯端の湯は朝 6 時からとなっています。湯端の湯は男女別の湯に加えて村民の湯というのがあるらしく、他の 3 湯から場所も離れており源泉も違うのかなと想像してとても興味がそそられます。湯の花温泉も木賊温泉ももう一度訪れたいと思う温泉です。立ち寄り湯だけではなく風情ある民宿が湯の花にも木賊にもあってぜひ泊まってみたいですし、絶対そばと天ぷらが美味しい。昔の茅葺屋根の集落を見学できる前沢曲家集落にも人気店らしい井桁豆腐店にも行ってみたい！初めて訪れた南会津は再訪したいと思うぐらいには気に入りました。

車に戻るとバイクが 1 台やってきて 3 人で話が盛り上がります。ライダーさんは新潟の方から来たと言っていたかもしれない、とにかく道中寒かったそう。うん、私も指千切れるかと思った。今度は A さんに希望を出して、「ここは源泉が全然違う古町温泉ってところに行きましょう」と言い再び車移動。

国道 352 号を道なりに行けば奥只見記事でも通った T 字路に着きますが、これを檜枝岐と逆方向に国道 401 号を走ると間もなく古町温泉へ到着します。



## 古町温泉赤岩荘

2023年11月現在も露天風呂に立った時の感覚を覚えている……！

9:43 ポコポコと激しく湧く湯



真っ赤な析出物の百枚皿

10:32 露天風呂



入湯料は600円と先ほどよりは高いですが湯の花温泉が1湯75円と安すぎるだけです。湯は色のインパクトが強く見るからに鉄分豊富という感じのナトリウム—塩化物泉です。内湯と外湯は繋がっていないので移動する際は一旦服を着る必要があります。内湯も外湯も無加水無加温の100%源泉かけ流しで、湧いて手の加えられない温泉が楽しめます。内湯では不規則に温泉がパイプから湧いており凄い湯量だと吃驚しました。内湯もほどほどに楽しみにしていた露天風呂へAさんと行くと先客が1人、お茶を

持ち込んで湯に浸かっていました。天候が良く赤褐色の湯が太陽光で照らされネットで見た写真のものよりはるかに鮮やかでした。紅葉と同じで温泉も条件によって見え方は変わるし同じ温泉に二度行ったとしてもその場で感じることは変わりうるのだなと気づきを得ました。浴槽は2つに仕切られており注ぎ口から近い方は熱め、竹をパイプとして使って遠い方の浴槽へ源泉を引き込むという斬新なことをしていました。先客のおじいさんは地元の方で毎日入っているそう。口調まで覚えていないので箇条書き。

- ・〇〇台風の際は怖くて家を含めて何もかもが流されてしまった
- ・足が大きくて合う靴が地元になかったから若松まで一日かけて行ったが、帰ってきたら町がなかった
- ・学校がボロかったから(台風に乗じてかも)火をつけて燃やしたら再建されて立派なものができる
- ・会津地方で8月に桜が咲く場所があるらしい

私の聞き間違い記憶違いもありうるのであまり真に受けない方が良さそうだけど、とにかく面白いお話を聞かせて頂きました。もう一点、これは本当。

・温泉はしっかり流して上がった方が良い←服もタオルもオレンジに染まってしまうそうなのでね  
朝の氷点下から気温も上がってきて5月らしい風が心地よく良い時間を過ごせました。おじいさん、私のために竹筒を動かして水道に繋げ湯温を下げてくださいありがとうございます。



赤岩荘では軽食が食べられますが檜枝岐のそばが食べたかったので Aさんと一緒に檜枝岐方面へ行くことになりました。温泉では温泉タオルが売っておりここは赤褐色のタオルと珍しく買うかどうか迷っていたら Aさんが買って私にくれました。ありがとう！今では我が家のお風呂用タオルになっています。

10:39 古町温泉赤岩荘を出発

11:21 裁ちそば まる家



温泉から檜枝岐は結構遠くて25kmもありましたが車の速さに感動していました。自転車だと1時間以上かかる距離なのでもはや自転車では成立しない行程になっています。ドライブ中は列車の運転方法などを車と坂道で実演してもらい楽しく時間を過ごしました。

この日の終着点は新潟県まで抜けた先の南魚沼にある五十沢温泉であり18時までに着く必要がありました。檜枝岐から只見までの60kmに加えて只見から五十沢温泉まで85kmあるので流石に全部自転車は不可能であり可能なら只見まで送って頂こうと考えていました。只見駅出発の最終ラインを12時40分と考えており車で60km、行けるか……？という時間ギリギリの状態でした。

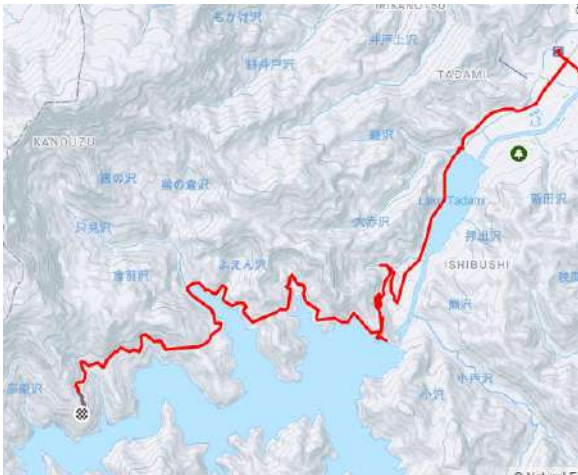
結局只見駅まで送って頂き、前半は私の国道標識撮影に付き合ってもらい後半は睡眠不足からか眠ってしまい気付けば只見駅に着いていました。

12:45 只見駅「あそこで列車は停まらないといけないんだ(白黒の標識を指しながら)」





## 只見～六十里越の移動ログ



出発最終ラインの 12:40 を過ぎて 12:50 時点で只見駅に居たので車にもう少し乗せて頂かないと厳しそうです(まあ無理なら無理で気合で間に合わせましたが)。せっかくここまで来たのだからということで只見ダムと田子倉ダムを見に車で峠道を上り始めました。

只見ダムと田子倉ダムは非常に距離が近くダムが2つ連続して設置されているという中々見ないタイプで、その落差から道の険しさを感じさせます。

今回は R352 の予行として R252 を走っており R352 への期待が高まっていました。

12:56 只見ダム 5月で雪が残っているんだ



13:05 道中 R352 と同様に R252 も狭い道です



13:13 田子倉ダムより只見ダムを臨む



私は詳しくないのだけど、ダム好きな先輩は只見川沿線に沢山ダムがあるから楽しめるんじゃないかな。ぜひ行ってみて下さい。

ダム堤体にはヘルメットの集団が。新人研修だろうなー。



「その、もし可能でしたら峠の頂上まで送って頂けるとありがたいのですが……。」

「良いよ。」

この余裕が旅してるって感じだなあ。私は行程を1つ作ってその場の出会いに応じて作った行程を部分的に壊すというスタイルですが、もうこの完全に気ままに行動している感じが良いですねー。自転車の毎時20kmと違って車のスピードだとこんな余裕が生まれるのですね。結局、ドライブが好きな方だったので快く頂上まで送って頂くことになりました。

田子倉ダムからしばらく上ると一瞬だけ只見線がトンネルから外に出る区間があり、ここに2013年に廃止となって田子倉(たごくら)駅があります。マップを見れば伝わるのですが田子倉駅は意味の分からないところに位置しており誰が利用するのだと言いたくなる、いわゆる秘境駅でした。秘境駅と言えば飯田線の小和田駅、あそこは40分登山をすれば塩沢集落に出ますし道中にもかつての生活の痕跡があったので駅があるのは分かるのですが、田子倉駅の周りには家などないのです。というか国道252号が積雪で半年以上封鎖されているから住めない。登山客が使ったのでしょうかね……？

13:34 この真下を只見線が走っています(覆道の天井) 13:35 封鎖された駅舎を垣間見る



Aさんと段差を上ったり草を分けたりして駅舎を一周してみました。

「何でこんなところに駅があるんだろう、会社に行ったら聞いてみるか。」

13:40 覆道が凄い区間(語彙力)が続きます

13:43 今まで見たことのないタイプの道





途中アイヨシの滝・あいよしの沢という場所を通ります。ここについて現在の道は山肌に沿う形になっているのですがこれは元々旧道で、橋が流されてしまったそうです。

13:53 頂上が近づくと道路に雪が！



14:00 六十里越峠開通記念碑の展望スポット



六十里越峠開通記念碑の辺りでは山々の中を蛇行する田子倉湖の支流を俯瞰でき撮影スポットと言えるでしょう。頂上ではなんと道端に雪が残っていて桜も咲いているという初めての体験がありました。冬に只見エリアに来たことがないから想像がつかないのですが、只見・檜枝岐・奥只見は相当雪深いのだなということは伝わってきます。開通記念碑が峠手前の最後の駐車スペースなので車を停めて、残りの67kmは自転車で走ることにしました。

14:17 Aさんと連絡先を交換して別れました。私は峠を越えて新潟へ、彼は来た道を引き返して福島へ。

チャリで来た、はず



覆道が長い



雪解け水！！





14:31 隧道を潜り抜けて新潟県入り



14:35 シェッド 3 連の九十九折



六十里越の新潟側はあまり下っていて楽しくはありませんでした。シェッドは福島側で見飽きましたし普通の峠道で目新しい要素はありませんでした。只見線もある程度行かないと現れないし。紅葉の季節には福島側と合わせて走ってみたいかな。個人的な好みですが景色が良い区間は下りではなく上りに持ってきたいんですよね。上りだと速度を出したくても出せず低速で下から上まで景色と向き合い続ける必要がある一方、下りで速度を出していると見落としが発生してしまいます。

眠気で一度こけそうになったのでセブンで休憩。

16:17 1日3本の只見線には小出の1つ隣駅で邂逅 16:48 田植えの季節、青空の下、南魚沼ストレート



どこで会うのかと楽しみにしていた只見線の列車はほぼ末端の小出駅のお隣、藪神駅へ丁度入線してくるところでした。ふと思ったのですが、〇〇橋梁など只見線を狙った場所で撮れるのは日本の鉄道運行ダイヤが正確なおかげなのですね。定刻に列車が来るのが当たり前だと思っているから橋梁を何時何分に通過するのか大体算出できるのです。そういう意味でも、Aさんありがとう。

17:30 本日の宿、五十沢温泉ゆもとかんに到着

以上、5/12：自転車 164.6km 2,432mUP、車 130.33km でした。



5/13 7:27 翌朝の朝食



#### 五十沢温泉ゆもとかん

温泉は内湯 1 に混浴露天 1、あまり何も考えずに入っていたので多くは語れないのだけど浴槽の配置が好みだったので 4 点。自分は大きな旅館のお風呂では満足できない傾向にあるな……、ぜいたく言えば秘湯とか鄙びとかそういう要素が欲しい。

朝飯のバイキングは魚沼ということで米が美味しかったし、米と合わせるものが沢山あって満足でした。

8:52 出走

この日は越後湯沢から鉄道輸行で帰ることは決まっていたので魚沼エリアの近場で面白いものがないか探して行くところを決めました。入りたい鉱泉が 1 つ、有名な清津峡が近かったので寄って星峠の棚田も有名だから寄るといった感じ。午後は雨予報だったので早めの進行を心掛けました(その割に出走は遅い)。

まずは六日町から上越線沿いに 20km ほど南下して石打駅というところまで。



8:55

魚沼と言えばコシヒカリ、丁度今が田植えの時期で植えられたばかりの苗が可愛らしいです。石打駅で大学の前を通っている国道 17 号からは外れて国道 353 号の上りが始まります。上り始めて間もなく、目的としていた鉱泉である「上野鉱泉」に到着。2023 年 5 月時点で上野鉱泉に入れる宿は 3 つ：名月荘、中の湯、松寿館でした。泉温が 14°C~16°C ということで冷泉好きとしては行くしかありません。ただでさえ冷泉は数が少ないのだから。

9:52 上野鉱泉中の湯



中の湯前のガードレールに自転車を停めて引き戸を開けると人はおらず、右手の部屋から話し声が聞こえてきます。日帰りができるかと聞いたら宿のおばあちゃん曰く「今日はやってないんですよ。ごめんね。」とのこと。潔く諦めて今度は名月荘へ。引き戸を開けて同じように聞きますが、今度はお客さん(宿泊客)が午後に来るからまだ貯めていないとのこと。もう 1 か所宿はありましたが、今回は縁がなかったのだと諦めて一旦コンビニへ。まあ雨も迫っていますし。

上野鉱泉には奥の湯という宿もありましたが続く道は封鎖され廃墟となって立っていました。深く諦めて清津峡まで 15km の道のりを削っていきます。最初は軽いヒルクライムのような上り基調でシェッドとトンネルが連発、清津峡目当てなのか交通量が結構多く車が怖かったです。

11:00 清津峡に到着

清津峡と言えばトンネルが水面に反射した写真が有名で某 SNS によく流れてきます。検索して調べていないので、あれがどういう状況なのかよく分からず自分の目で確かめようと思いました。どうせこんなもので感動するわけではないのだからと通り過ぎる案も頭をよぎりましたが、グッと堪えて訪れることに決めました。自分が自転車を停めたところの駐車場は埋まっており、道中も車の列ができて賑わっていました。自転車は私 1 人だけ。

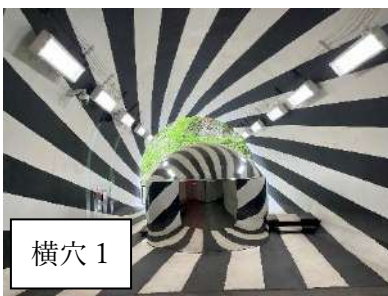
### 清津峡溪谷トンネル

なるほど。清津峡というのはやはり溪谷であって、これを良い位置で見るためにトンネルが掘られたという認識で合っているのかな？えっ、通行料が 1,000 円！？ええ商売してはんな！袋田の滝は 300 円だったのに……。少し高く感じましたが、まあ初回なので大人しく払いましょう。

11:03 柱状節理の装飾を施した坑門



トンネル内の説明文を読むに、昔は溪谷に沿って遊歩道があったものの 1988 年に発生した落石死亡事故のため遊歩道は封鎖され、再び清津峡を見られるようにしようと掘られたのがこのトンネルだそう。これ層雲峡と似たようなパターンだな。現行銀河トンネルの旧道区間こそ本当の層雲峡と言えらると思うけれど、この区間にアクセスすることは叶わなくなって層雲峡の魅力の半分が、層雲峡の魅力全体だと普通の人には認識するのです。昔の遊歩道を歩けないかと調べると部分的な歩行記録が 1 つありました。





清津峡溪谷トンネルは坑内分岐や断面変化が多くてトンネル好きとしては見て楽しいです。換気装置がパッと見て見当たらなかったのが気になったけれど穴だらけだからまあ良いのかな。トンネルには横穴が掘られており川の流れを横から、柱状節理の壁と共に観賞できます。横穴に謎のアートが設置されているけれどこれは謎、どんなコンセプトのアートなのだろう。トンネルの突き当たりがあの有名な写真の場所であり、清津峡溪谷トンネルの反対側の坑口になっていたということです。地面から一段高い所に非常に浅いプールのように水が溜められておりリフレクションを作り出しているよう。人が多すぎてあの先っちょから人が絶えることはあるんでしょうかね？雨が降ったらすぐ水が入ってくるような靴を履いていたので先っちょまで行くのは躊躇われましたが、流石にここまで来たらということで行くことに。トンネルの真ん中が深くて隅の方なら浅いので何とか濡れずに済みました。



11:18 適当でも良い感じに撮れました

そんなことよりあの遊歩道行きたい行きたい行きたいぞ



帰りは真っすぐ早足で、トンネル内は単色の赤や緑にライトアップされていて普段の隧道潜りと違う体験ができて面白かったです。目の付け所を間違えている気はするけれど、初回の清津峡は低かった期待よりは面白かった。

現トンネル右側の「穴」



旧トンネル1



旧トンネル2



穴に入りたくなかったので態々歩道に上がって K389 清津公園トンネル旧道へ。  
清津峡の次はちょっと「穴」に入りに行きますよ～。



## 国道 353 号清津峡トンネル旧道

11:49 R353 清津峡トンネル旧道十日町側



旧道・廃道でお馴染み某サイトで R353 のこのトンネルが紹介されており、複数世代の道とトンネルが存在し面白かったので自分の目で見てみることにしました。辺りを見渡すと「∟10m 瀬戸溪谷」と書かれた看板がありました。実はこの地点から現在清津峡と言われ観光客が楽しんでいる区間を通った更に上流までの 12km を瀬戸溪谷と言いかつては遊歩道で通り抜けることができたそう。私たちが清津峡と思って楽しんでいる区間約 1km は 12km の瀬戸溪谷のほんの一部ではないのです。



まだ現(役)道(路)にいるけれど色々見えちゃってるねー。左上の写真は現トンネル脇の旧国道、ここで旧国道と現道に挟まれる形で意図的に埋められた穴を見逃しませんでした。右下が謎の穴を拡大した写真で、隧道は貫通しているものの中は部分的に水没していることが確認できました。坑口のサイズを考えて明らかに車用ではないこの隧道は雪中隧道という類のものです。雪中隧道とは豪雪地帯である新潟県の十日町市などを始めとする魚沼地方において見られる隧道であり、冬でも歩行者の通行を確保するために掘られた人道トンネルです。少し脱線して、2004 年の新潟県中越地震で震度 6 強を観測した山古志村という村では各地で地滑りが発生し全集落が孤立、最終的に全村避難に追い込まれました。更に土砂により川がせきとめられ村が水没してしまうという衝撃的な写真が残っています。この山古志村では子供たちが楽に通学できるようにと多くの雪中隧道が掘られたそうです。ただ、簡単



この山古志村では子供たちが楽に通学できるようにと多くの雪中隧道が掘られたそうです。ただ、簡単



に分かるような場所にはなさそう。他にも山古志には手掘りの道路トンネルとして日本最長の 922m を誇る中山隧道があります。話を瀬戸溪谷に戻して、今ではコウモリの住処になっていそうな目の前の雪中隧道に入る気は起きないので旧国道に足を向けることにしましょう。



特に封鎖は無かったのですが普通の人はこの道を見て入らないでしょう。だって目の前を見たら片洞門が凄いオーバーハングしているし、何より怖いのは吹付けコンクリートが経年で剥離したものがバラバラと路面に堆積していること。この片洞門区間において積雪時も歩行者の通行を確保するため、進行方向左手の地中に雪中隧道が存在するのです。コンクリとその内側にある脆そうな岩に気を付けながら進むと旧国道の隧道が見えてきました。名を瀬戸口隧道と言い全長 134m で 1954 年完成だそう。





(左上)雪中隧道の清津峡側坑口

(右上)旧国道 353 号瀬戸口隧道十日町側坑口

(左下)これが旧国道……、旧国道にしても道として最低限過ぎる気が……。1 車線分の幅しかないし片洞門も危ない。国道 229 号の弁財棧橋区間みたいです。

(右下)瀬戸口隧道を奥まで進んでみるとこの先通行止めの看板がありました。この旧国道は現清津峡トンネルができた後しばらくは瀬戸溪谷遊歩道として使用されたようです。中里村は 2005 年に合併して十日町市になったので通行止めになったのは 2005 年以前、今から 18 年以上前のことだと分かります。



先に右側の写真について。隧道に開いた横穴から身を乗り出して真下を見てみると非常に狭いものの平場が確認でき、某サイトの調べによると明治 43 年から大正元年にかけて工事した道らしい。今から 100 年以上前にこんな急流の縁に道を想い描いた人、工事した人、令和の時代にこれが道であると気付く人、皆に敬意を表します。

#### 瀬戸溪谷と清津峡 / 瀬戸口隧道と清津峡溪谷トンネル

この瀬戸口隧道は隧道にしては珍しく横穴が 3 つも開いているのですが先ほどの 3 つ横穴が開いていた清津峡溪谷トンネルを思い出します。国道→旧国道→遊歩道→旧遊歩道→廃道と辿って来たこの隧道を観光するのは私ただ 1 人、一方で清津峡溪谷トンネルは沢山の人で溢れかえっているという対比にどこか寂しさ、そして悔しさを感じます。この道だって瀬戸溪谷遊歩道というれっきとした観光資源なのにさ、打ち棄てられて、見放されて。観光客は清津峡に集中してトンネルの先端でインスタ映えだの言ってポーズを決めているのです。あの有名な水鏡の写真のどこに清津川が映っているのか、映っているのは人工的に張られた水です。調べるとあの水鏡は途中の横穴に設けられていた謎のアートと同様に 2018 年に設置されたらしい。設計のコンセプトを読んだけれど私の感性では全く理解できないもので、死亡事故により封鎖された遊歩道の代替として何とか清津峡の溪谷美へ手が届くようにしたいとの思いで掘ったトンネル、その思いを上書きする訳の分からない存在に映るのです。そしてカメラを構えて皆同じような写真を水鏡で撮っているけれど、あなたたちは溪谷や柱状節理ではなく何を撮っているの？少数派の意見でしょうが、観光客さえ来たら何でも良いのか？日本三大峡谷なんて大層なものを謳うなら自然の美しさと真っ向から向き合える環境を残して欲しかった。ずっと手すりに肘をかけて溪谷を眺めていたら他の人が下らない映え写真を撮る邪魔になるし、周りのノイズがうるさいのです。まあ 1,000 円払った価値はありました。



「9/8 最盛期には 1,500 人が住み林業で栄えた山奥の地。鉄道の終着駅だったが、それも廃止されて今では 2 世帯が暮らすのみ。観光地というのは如何に魅力を作るかが大事だと思っていて、まあそういうのも悪くないが中々心が動かされることはない。そもそも景色を目にするまでの過程があって感動とは生まれるものだが、過程を抜きにしてもこの場所は好きで 1, 2 時間でも風と虫の声を聴いていたい。人間の手が加わっていない自然の方が美しい。心に強く残るものを求めて日本を旅行している。」

結局、私はおそらく立派に飾り付けられた作り物じゃ感動しないのです。

清津峡のような観光客が集中する A 級観光スポットの陰で廃れていく B 級、C 級観光スポット。私は心を大事にして旅行したいし、手の届く範囲なら輝きに依らず如何なるものでも拾い上げたいのです。だから私は写真を数多く撮るのです。標識 1 枚取っても見逃したくない。

---

2023/11/21 AM2:39 清津峡は極端な例です。

---

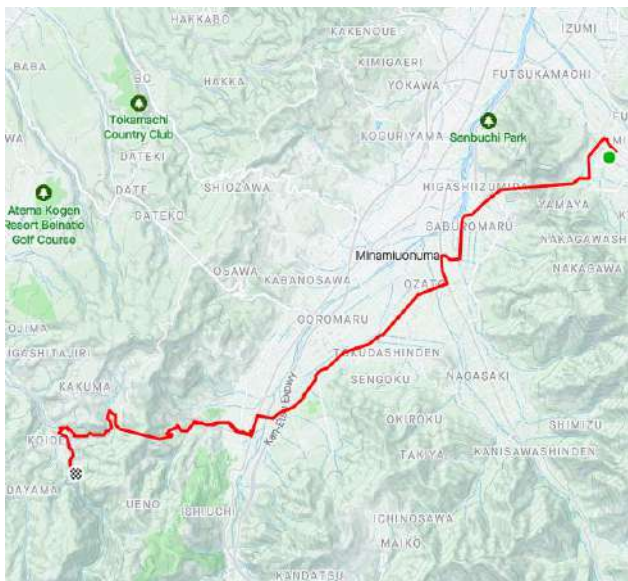
瀬戸溪谷遊歩道で綺麗な花を見つけました。タニウツギらしい。



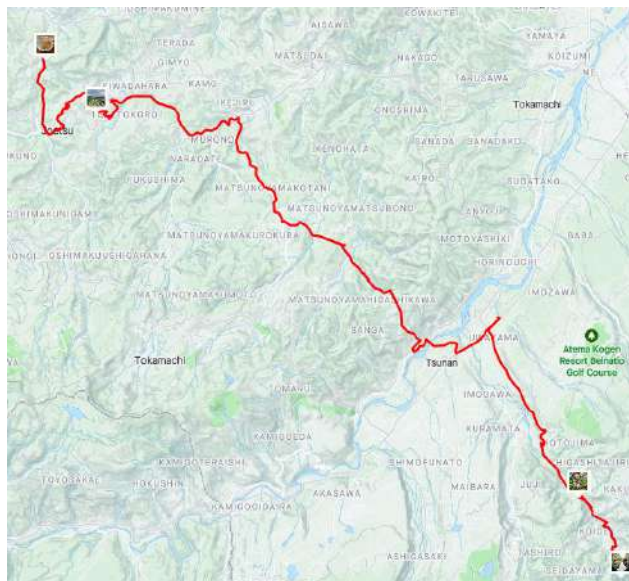
2023/5/13 12:05



清津峡まで 32.23km 643mUP

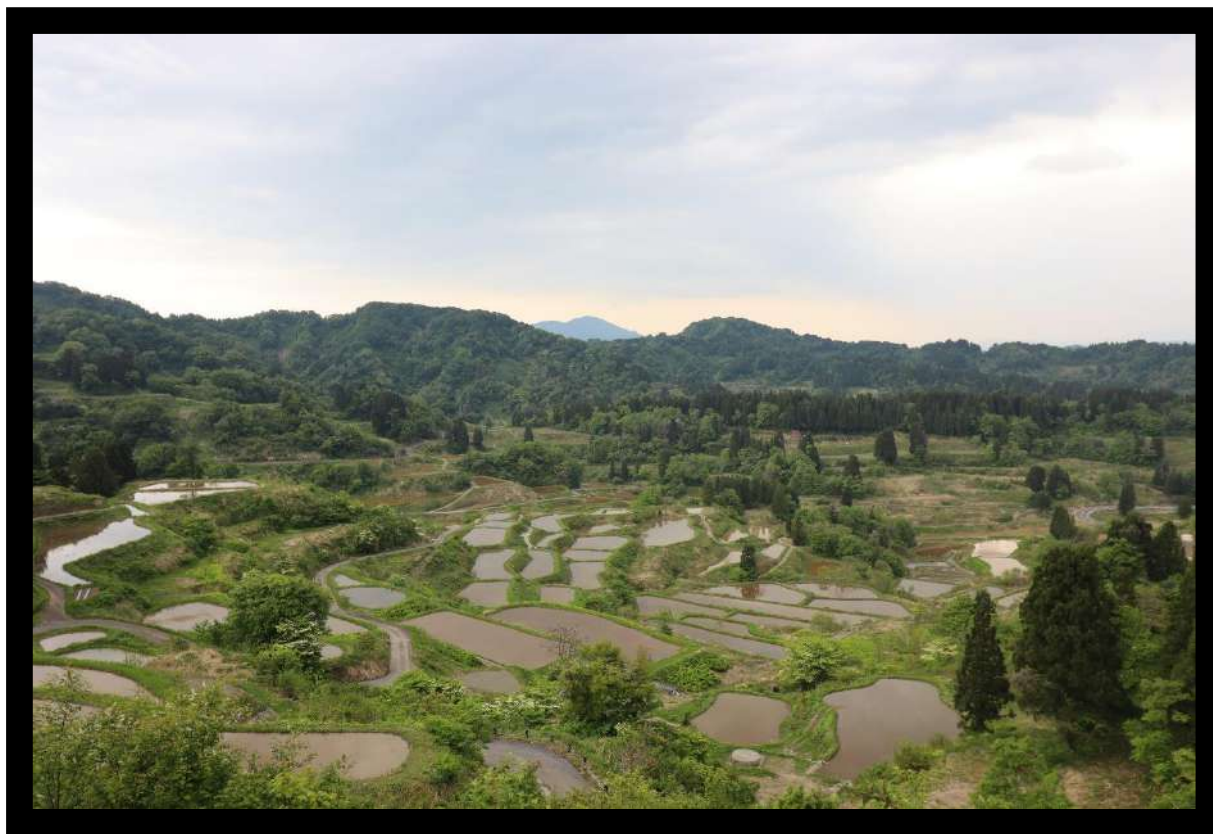


清津峡からほくほく大島 48.18km 873mUP



清津峡トンネルからは再び国道 353 号を走って飯山線を渡って松代へ。松代からは国道 403 号に乗り換えましたが、14 時頃から雨が降り出し 14 時半前まで倉庫に付いた狭い軒下で雨宿りをする事になりました。だらだら走って星峠の棚田へ。松代地域の棚田は 2009 年大河ドラマ天地人の OP にも登場したそう。斜面の土地を有効活用しようという意図の元生まれた棚田ですから田植えは機械が入れなくて手で植えているのでしょうか？

星峠の棚田





14:52 機械植え



14:55 手植え



15:03 国道標識とその土地を絡めた、こういう写真が撮りたい



下の湯温泉前にも停めてあったこの車をシニアカーと言うそうで田舎ではよく見かけます。おばあちゃんが道路右側の外側線外側を走っていて逆走逆走と思ったのですが、調べてみるとシニアカーは道路交通法では歩行者とみなすようで歩道や幅の十分な路側帯がある場合はそこを通り、歩道がない道路では右側を通行することが求められるとのこと。ならこれはOKなのかな。

ほくほく大島駅の直前で1つだけ寄る場所があります。「日本一うまいトコロテン」を謳うお店です。



15:12 日本一うまいらしい



15:21 4月下旬～10月中旬の営業



普通に生活していてトコロテンを食べることはあまりないと思います。食べるのいつぶりだろう？店名も商品名も「日本一うまいトコロテン」、日本一の味を楽しませてもらおうじゃないか。鯉の泳ぐ池に注ぐ小さな滝を眼前に食べ、清涼感が増します。味だけじゃなくてお店の空間づくりも食事体験には重要なものです。まずそのまま食べると想像通りの食感ですが、調味料が机に置いてあり醤油、酢、しそ醤油を順にかけて味を変えていきます。この中ではしそ醤油が持って帰りたくなるぐらいに美味しかったです。暫定日本一！値段は300円、箸1本で食べるものだとは知りませんでした。

15:41 ほくほく大島駅



再び雨に降られることもなくほくほく大島駅に到着し、輪行をしてエレベーターで高架になっているホームへ上がりました。何気なく撮った左のトンネルは鍋立山トンネルと言うのですが、このトンネルは日本のトンネル工事でも最上位の難工事を極め語り出すと日が暮れてしまいます。1973年から1995年の22年をかけて掘られた9,117mのトンネルであり、最後の645mを掘るのに10年以上かかりました。月進マイナス100mは絶望やな。

<https://www.nicovideo.jp/watch/sm18513266>

17:19 越後湯沢 寿司



17:28 ここは2回目



ほくほく大島から鍋立山トンネルを通り先着列車の都合上六日町で下車し、越後湯沢へ。

最終水上行き普通列車を始めた列車として東京まで鈍行で帰りました。

Ex2. 南会津の温泉 完結



## あとがき

最初50ページぐらいになるかなと想定しており編集担当にもそのように伝えていたのですが、北海道記事よりページの余白を削ったにもかかわらず134ページになってしまったのは旅の要素を1つ1つ列挙してみると自分が思う以上に色々な体験をしていたからでしょう。これでも地図や地形図はあまり載せずページ削減を試みたつもりなのですがね。

コンテンツの作成日時	2023/11/07 0:12
前回保存日時	2023/11/22 22:10
前回印刷日	2023/11/21 21:18
総編集時間	138:53:00

134/134 ページ 94133 単語

本記事は2023年轍への寄稿記事として書きましたが提出フォームを覗いても12ページの記事が1つあるのみだったので1人で100ページ書いてもあまり迷惑にはならないと思っています。コロナを境にサークル記事の提出は激減してしまいました。私が現役1年だった2019年は轍を始めとして毎月発行の会報にも個人記事がそれなりの数寄せられていたのですが、翌年にコロナが蔓延してサークル活動は停止し(私の怠慢でもありますが)会報発行頻度も低下。2023年にはサークル活動も既に再開しており定サイの開催報告などは流石に寄せられますが個人記事が殆どありません。先日会報記事云々について軽いショックを受けたのですが、私が書いた610ページの北海道記事の存在すら知られていなかったのです。あんな長くて上手とは言えない文章を読まないのは別に良いとしても存在すら知られていないって。同期も会報記事が発行されてもリンクを踏むことすらしていないようですし。

言いたいのは私の記事を書くモチベーションがないこと：もう書こうと思わないのです。たまに先輩から「OBの方は結構読まれているらしい」と伺うのですが、書き手からすると感想なり読了報告なりが無ければ読んでいないのと同じなのです。書き手になって「同人誌の感想が欲しい」とはこういうことかと理解しました。例えば2010年代前半の会報を見てみると数多くが寄稿されており、「感想寄越せ」と同期の友人に直接言うことは無かったと想像しますが、これだけ寄稿する人がいるのだから誰かは読むだろうと読者の存在を感じられたと思うのです。今では、ね。ログと写真を数枚貼るだけでも記事にはなるので皆さん記事を書きましょう。

この箇所を何人が読んでいるかは分かりませんが北海道記事と同じくフォームを置いておきますね。サークル外の方でも誰でもどうぞ：<https://forms.gle/FAxXSnQ517rrrQS86>  
纏めると感想くれたら嬉しいな～ってだけ。記事は長いから「最後だけ読んだよ」でも何でもどうぞ。

書くモチベーションはないけれど書くと言った以上2022年9月の北海道記事は1年半以内にいつか出せたら良いなと思っています。

---

記事ではビューポイントの情報だけでなく、私の旅の仕方や考えていることなど主張を結構書いたつもりなのですが、所詮は私個人の考えなので気にしないで下さい。本当は北海道記事で書くつもりだったけれど中々着手できなかったなのでこの場で思うことを書いてみました。

2023/11/21 15:20 執筆終了

2023/11/21 23:22 305 箇所修正

2023/11/22 22:10 再修正

---